自立活動・研修部インフォメーション

でんでんむし

令和5年7月号

愛知県立岡崎聾学校

こんなとき、どうする？～災害時編～

今年も台風や梅雨前線の影響で、今の時期の日本は大雨による災害が各地で起こっています。「ゲリラ豪雨」「線状降水帯」などの言葉も多く聞かれ、大きな災害につながっています。今月号では、聴覚障害のある先生方が出会った災害時の体験談と、その時の対処法について聞きました。

① こんな体験をしました！

坂本さん

ＪＲが運休になったので、家族や友達と連絡を取って、駅まで迎えに来てもらいました。

以前、車を運転中に道路に水があふれ、通行止めになっていたので、自宅に帰れず近くのホテルを探して宿泊したことがあります。

いざ！という時に困らないように、普段から家族や友達と連絡を取り合っています。避難場所も決めています。自宅に防災グッズを準備しています。

電話リレーサービス、119消防署に登録をしています。

小林先生

平成20年の8月末豪雨で伊賀川が増水して、市内も水浸しになり、洪水に見舞われた夜のことでした。アパートの2階に住んでいたので、大変な状況に気付かず寝ていました。音が聞こえず、当時は市からの緊急メールもありませんでした。朝起きて初めて大惨事であることに気付いたのです。

その経験から、家を建てる際には、これまでに水害等があった地域かをしっかりと確認して、土台を高めにしました。

井上先生

以前、電車内で急な運行ストップに遭いました。駅員さんは多くのお客さんの対応に追われていて忙しそうだったので、同じ車両で近くにいた感じの良さそうな女性に放送内容を教えてもらいました。今はYYプローブ等が、どこまで音を拾えるのか楽しみです。

車内放送や構内放送は分からないと思っているので、ネットで調べて確実に分かってから動くようにしています。

②高齢者も大変でした！

藤田さん

この6月の大雨で被害や困ったことはありませんでしたが、高齢者などに関係して気になった点が1つありました。「警報が出たこと」「対策本部が設けられたこと」「避難所が開かれたこと」の案内が市からFAXで届きましたが、高齢の家族（聴覚障害者）は気付いていなかったのです。

避難弱者として登録をしているので、いざ!という時には町内会や最寄りの行政関係者が来てくれると思いますが、まず“気付きが無いと身を守れない”と思いました。

また友人の話ですが、自宅（豊川市）近くの川が氾濫危険水位に達していましたが、馴染みの施設職員さんが心配して様子を見に来てくれるまで、知らせもなく状況を知らなかった、ということがありました。

今は、スマホの普及により、それらを駆使すればニュースも簡単に見ることができますが、高齢者はテレビにいつテロップが流れるのかがわからないので、かじりついて見ている方も多いのではないでしょうか。今回のことで、家族のFAX以外の方法を確認しようと思いました。

本号では、4名の方の体験を記載しました。次回は、他の方の備えていることや工夫していることについて掲載する予定です。

明日からは、長く楽しい夏休みです。とても暑い時期ですので、補聴器の点検、丁寧な掃除をして、2学期に備えましょう。

★9月の補聴器相談日

場所：作法室　時間：13:45～15:45

緊急の場合は、直接店舗へ相談に行きましょう。来店の際は予約をしておくと、スムーズに対応していただけます。

	9／5
理研産業	○
岡崎ヒヤリング	○
あいち補聴器	○